



ロータリーは機会の扉を開く

(国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク)
2020-2021年度 国際ロータリーのテーマ
「ロータリーは機会の扉を開く」
(第2660地区ガバナー 簡 仁一)

WEEKLY BULLETIN
OSAKA NAMBA
大阪難波ロータリークラブ週報

今日の卓話	次回の卓話	ロータリー4つのテスト
12月24日(木) 休会の為、ありません	1月7日(木) 休会の為、ありません	言行はこれに照らしてから 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

12月24日(木)は例会の予定でしたが
新型コロナウイルス感染拡大防止の為
本日は休会といたします。

♪ 四つのテスト

- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

ニコニコ箱報告	
前回の合計	¥ 0 (休会)
本日までの累計	¥ 1,459,500 (72%達成)
12月末の予算額	¥ 2,000,000

出席報告			
前回	12月17日	3週前	11月26日
会員総数	58名	出席免除を除く MUを含む	修正出席率66.66%
出席会員数	名		
出席率	%		

大阪難波ロータリークラブ 例会日時 毎週木曜日 12:30
創立 1976年8月5日 例会場 スイスホテル南海大阪7階 芙蓉の間
会長: 川口栄計 幹事: 福田 忠 会報・雑誌委員長: 三島敏宏 事務局: 安部亜希子
事務局 〒542-0076 大阪市中央区難波5-1-60 スイスホテル南海大阪5階
TEL 06-6632-3956 FAX 06-6632-3957 e-mail osaka-namba@poem.ocn.ne.jp

12月 入会記念日 おめでとうございます

12月6日 井上満昭会員 平成19年

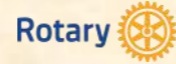
12月7日 石川益三会員 平成18年

宮本倫明 会員



ロータリーは日本の伝統を継承し、地域の発展に貢献しています。中央アジアを感じたいと思つておられます。

興味が行くところでもあり、仕事でも積極的に海外に参ります。欧米、アジア・オセアニア、北アフリカを様々な国へ旅行しました。二〇一七年に中央アジアのカザフスタンを訪問して価値観が変わりました。「変わらない力」のすごさにカルチャーショックを受けました。イベント「プロフェッショナル」の仕事上、時代を先取りする「変化」を多くの人にPRしています。例えば、万博などでは、人類の進歩や環境問題への対応など時代に必要とされる「変化」が求められてきました。しかし、四国国際博覧会協会加盟国へ大阪万博誘致のPRするために、カザフスタンのアスタナ万博に行った時や習字クラスを旅行した際に、迷路のような古い町並みで、家畜の売買や市場などの日常風景や、



Vol. 29

「テーマ 変わらない力」

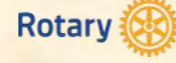
世代を紡ぐ
インタビュー

森田 納 会員



これらのように今ではあり得ないようなことがたくさんありました。学生時代にどのようなことを経験することによって、社会に出てからは大抵のことは動じない人間になれたと思います。このような貴重な経験をさせてくれた落語研究会に感謝しておりますので、年2回のOB会の幹事を進んで務めさせていただきます。

私は、高校までは普通一員でしたが、大学入学後進んでからもやってみようという思いもあり、新歓オリエンテーションでまた落語研究会のブースを通りすぎようとしたところ、「おいしいお酒とつまみがあるよ。」と誘われて、気が付けば入部していました。龍谷天学落語研究会には6名派あり、私の名前は「天亭酔処(だいていようこ)」でした。その当時は部員が約五十五人の大所帯で歴史ある落語です。そのまま落語家になられた方もあり、桂枝舎師匠の二番弟子の桂雀三郎師匠や林家塾 師匠などのOBがいらっしゃいます。技師とべか(南光師匠)に龍大寄席に来て頂いた事は忘れられません。部活動は厳しく、朝・昼・夕に発声練習をし、その後本格的な練習を毎日行っていました。そんな中でも地獄の特訓合宿が忘れられません。



Vol. 30

「テーマ 落語研究会 大亭 酔処(だいていようこ)」

世代を紡ぐ
インタビュー

お知らせ

事務局 冬休み
12月26日(土)~1月4日(月)
緊急連絡は福田幹事まで
お願いします。
(福田幹事携帯090-3017-2992)

これからの予定

12月31日(木) 休会
1月7日(木) 例会中止
1月14日(木) 例会未定・定例理事会
1月21日(木) 例会未定
1月28日(木) 例会未定
2月4日(木) 例会未定

12月は「疾病予防と治療月間」です

★来客紹介：ありません

★会長報告：川口会長

1. 大阪難波ロータリークラブ会員の皆様、こんにちは。本日の例会も残念ながら休会となりました。年内及び年明けの予定は、先般の福田幹事からの報告の通りです。
2. 現在、12月22日に前回の会長報告を執筆しております。大阪では若干抑えられていると思いますが、東京では拡大が止まりません。医師会9団体からの共同医療緊急事態が宣言されました。引き続き注視していきたいと思っています。
3. 12月18日、2660地区IM4組の会長会議がZOOMにて行われ、意見交換して参りました。内容は、①地区大会の開催結果（詳細は先週の福田幹事報告にあります）②IMロータリーデー2021年2月27日（土）13:30～16:30、セラトン都ホテル大阪。ホストクラブは東大阪みどりRC、サポートクラブとして大阪ネクストRCとなっておりますが、例年ですとホストクラブが訪問されご案内頂くのですが、今年はコロナ禍で未だ案内がありません。口頭での会長会議と地区への案内だけに留まっておりますので、紙ベースでもいいので各クラブに、早く案内を頂けるよう要望しております。③国際青少年交換の中止④インターアクトクラブの20～21年度の海外派遣事業の中止⑤これに伴い全てのインターアクトクラブにZOOM機材（PC、カメラ、配信用機材）の寄贈が行われます。以上です。
4. さて本日の「ロータリアンの足跡」は、竹中藤右衛門（神戸RC木曜会18代会長）であります。私どものクラブにも建設業界の会員が沢山おられると思います。私はこの業界のことは不勉強なのですが、竹中工務店は、初めてのことをこなす、そんなイメージです。東京タワーを始め、単に建物を設計すると同時に、新しい発想の建て方も設計或いは、海外から取り入れてきたのではないのでしょうか？例会が再開されれば、北田元会長に詳しくお聞きしたいと思います。本日の会長報告は以上です。皆様とご家族の健康を祈念いたします。

★幹事報告：福田幹事

1. 厳しい寒さの中、冬のひだまりがことのほか暖かく感じる歳末の候、気ぜわしい時期でございますが、会員の皆様にはお変わりなくご健勝にて何よりと存じます。本年も大変お世話になり感謝申し上げます。本日12月22日（火）の新型コロナ新規感染者は、大阪283人・東京563人と以前として高止まりが続いている状況です。そして、台湾でも約8ヵ月ぶりに感染者が1人確認されました。来年6月、台湾での三姉妹訪問、国際大会までには収束に向かいますことを心より願うばかりです。
2. さて、現在は休会が続いておりますので、私からの幹事報告は、RIや地区の動向・ロータリー情

報・ロータリー談話などを発信したいと思います。ロータリークラブの規模や特徴は様々です。オンラインで例会を開くロータリーEクラブや、正クラブ開設への手段の一つとして衛星クラブもあります。第2770地区に、ロータリー財団の学友と米山記念奨学会の学友が中心となって2013年に設立された「さいたま大空ロータリークラブ」というクラブがございまして、7つの国や地域の方々に構成されています。こちらのクラブは、このコロナ禍の中、グローバル補助金を使って「モンゴルにおける肝炎患者支援プロジェクト」を行い、集中治療室に設置する医療機器をモンゴルの病院に寄贈しています。現地訪問なし、贈呈式は「Zoom贈呈式」で行われたようです。 ↓↓Zoom贈呈式



このクラブが国際色豊かなクラブであったからこそ、成し遂げられたという面もあるかも知れませんが、「人との接触が制限される時期」に「医療従事者への支援、医療機器の提供」を実現されているという点では、これからの奉仕活動のスタイルとして大いに見習うべき面があると思います。現会長の阮 潔（げん けつ）さんが寄稿された文章がロータリーボイスに掲載されていまして、ここにご紹介させていただきます。

【共通言語は日本語：多国籍の新生代クラブ さいたま大空ロータリークラブ】

例会がそのまま国際交流に

私たち「さいたま大空ロータリークラブ」は、ロータリー財団の学友と米山記念奨学金の学友から成るクラブです。会員は7つの国と地域の出身で、平均年齢は30代後半、女性が多いのも特徴です。中国に在住し、遠隔で例会に参加している会員もいます。共通言語は日本語です。一番の醍醐味は、クラブでの例会が、そのまま国際交流であることです。国際色豊かなメンバーと一緒にいる中で、お互いに異国文化や習慣に触れあい、国際理解を深めることができます。また、家族や友人が少ない日本での厳しい生活でも、相談しあい、助けあえる仲間がいることも貴重です。人脈が広がり、例会や活動で仲間と会えるだけで楽しいと実感しています。

クラブの特徴を奉仕活動に生かす

クラブが特に力を入れているのは、地区補助金を活用した国際奉仕活動です。多国籍クラブであるという強みが、これらの活動で生かされています。みんなの発想力と行動力に加え、出身国に関する知識や人脈、母国語を生かして、会員が奉仕活動の計画から実施まで

責任をもって実行します。受益者の選定、ニーズ調査のためのヒヤリング、準備などを自分たちで行うことができるため、より効果的で細やかな奉仕活動が可能となり、現地訪問も安全かつ安心してできます。伝統として毎年、クラブ会長の出身国で国際奉仕を行っています。これまで、ネパール、ミャンマー、スリランカ、モンゴルといった国々で、教育支援や人道支援の活動を行ってきました。国際奉仕活動に加え、クラブの地元地域の子どもたちと毎年交流し、外国文化を体験してもらう社会奉仕活動も行っています。

モンゴル肝炎患者支援プロジェクト

今年度は、中国出身の私が会長となり、中国でのロータリーの活動が難しいことから、モンゴルを実施地として選びました。幸い、モンゴルの米山学友が通訳を担当してくれました。モンゴルは西太平洋地域の中でウイルス性肝炎感染率が最も高い国ですが、国立感染症センターの肝炎病棟に集中治療室がなく、別病棟の集中治療室に搬送するのに5～10分かかり、救急患者・重篤患者の救命率が低くなる原因となっています。この搬送時間を短縮すれば、救命率を40%までアップすることができます。モンゴルのツツグン・ロータリーアクトクラブがそのための「集中治療室改善プロジェクト」を立ち上げたことを知った私たちは、現地ロータリーアクトと協力して、地区補助金を利用して生体情報モニターと薬品キャビネットを寄贈しました。

このプロジェクトでは、海外ロータリーアクトとの新たなパートナーシップを切り開いただけでなく、モンゴルのロータリーアクトクラブと米山学友会の協力関係を築く機会にもなりました。世界的なコロナ禍の影響で実行が危ぶまれましたが、ZoomやSNSを利用して、モンゴルのロータリーアクトクラブやモンゴル米山学友会と協力し、無事に贈呈式を行うことができました。

「大空」のようなクラブをめざして

さいたま大空ロータリークラブの「大空」には、「このクラブに集う仲間は、たとえ若く未熟な者であっても、大空のように高く、そして広い志を持ち、自らの理想に向かって臆することなくはばたく人間であってほしい」という思い、そして「この見上げた大空には、国境がない」という意味が込められています。これからも、会員が互いに理解・尊重し、国境を越えた絆を深めながら、継続的にグローバルで奉仕活動ができるクラブになりたいと思います。みんなで決めたクラブのビジョン、「会員一人ひとりが、個性と能力を発揮し、柔軟性の高いクラブ。地域社会ニーズに応え、異国文化の交流と伝えを続けるクラブ。お互いに多様性を認めあい、共にグローバルで活躍するクラブ」を実現し、「大空」のようなクラブになることを目指して。

★委員会報告：ありません

★ニコニコ箱報告：ありません ★卓話：ありません

地区大会報告 地区ホームページからの YouTubeライブ配信を視聴

12月12日（土）大阪国際会議場にて開催されました。クラブ紹介のコーナーでの、当クラブの過去の奉仕活動の様子です。近年、第2660地区においても「公共イメージ向上委員会」として、公共イメージと認知度の向上が重要テーマとの事ですが、「公共イメージ」を高める方法として一番取り組みやすいのは、世界ポリオデーに因んだイベントや活動だと思います。ロータリアン、ロータリーアクト、インターアクト、青少年交換学生、米山奨学生が参加することにより、地域社会の方々に対してもロータリーの認知度も上がると思います。RIに登録された世界ポリオデーのイベント数は、ブラジル575件、アメリカ348件、ナイジェリア187件、メキシコ164件、ベネズエラ157件、日本は14件となっております。まだまだ日本国内におけるポリオの意識は低いと思われます。次年度もぜひ世界ポリオデーを活用したイベントの開催を進めて頂きたいと思います。 文責：福田 忠

